

分野 2 : アフリカとの対話・交流及び日本の対アフリカ政策に関する 日本国民及び国際社会の理解の促進

中期目標 :

アフリカ地域との対話・交流及び日本の対アフリカ政策に関する国内外の理解促進を効果的に行う。

過去 3 年度 (令和 5 ~ 7 年度) の主な成果	課題及び今後の方向性
1 【アフリカとの対話・交流の推進】 - 令和 5 年 3 月、アフリカ屈指の産油国であり豊富な天然資源を有するアンゴラのロウレンソ大統領を招へいし首脳会談を実施した成果として、令和 6 年 3 月、同国と初めての二国間政策協議を実施した。また、同国との二国間投資協定が発効し、同国への日本企業の新たな進出につながった。さらに、ロウレンソ大統領は第 9 回アフリカ開発会議 (TICAD 9) に出席し、共同議長として TICAD 9 の成功に貢献した。 - 令和 7 年 2 月、銅・コバルトといった豊富な鉱物資源を有する、ザンビアのヒチレマ大統領を招へいし首脳会談を実施した。この機会に、二国間投資協定が署名され、新たに、二国間政策対話が立ち上げられた。こうした成果が、日本企業のザンビアに対する新たな投資に結びついた。 - 令和 5 ~ 7 年度には、アフリカ諸国合計 22 か国から 23 名の賓客を招へいし、幅広い対話・交流を行い、二国間関係を強化した。また、日本に関する講演を実施するため、オンラインを含め 13 か国に 6 名の日本人講師を派遣し、日本への理解促進につなげた。 - 岸田総理大臣や林外務大臣がアフリカ諸国を訪問した他、アフリカ貿易・投資促進官民合同ミッションを 3 回派遣した。これらの訪問を通じ、令和 7 年に横浜で開催された TICAD 9 (アフリカ 49 か国・首脳級 33 名の参加) への協力を確認し、二国間関係の強化に結びつけることができた。 2025 年日本国際博覧会 (大阪・関西万博) に 40 か国以上のアフリカ諸国が参加し、アフリカ 15 か国 16 名の首脳級が訪日し、多くの政府ハイレベル会合を実施することができた。	1 【アフリカとの対話・交流の推進】 - アフリカ地域は、54 か国に約 15 億人を擁し、2050 年には世界人口の 4 分の 1 を抱えるようになるといわれるなど、若く、エネルギーで、潜在力にあふれた地域である。豊富な天然資源や高い経済成長率を誇ることから、日本の経済安全保障やバリューチェーンの確保の観点で重要な地域であり、更に開拓すべき投資先として世界の関心も集めている。アフリカ諸国における日本のプレゼンスを更に強化するため、TICAD 9 で表明されたビジネス・経済分野での協力強化を含む積極的な交流促進を通じて、更なる日・アフリカ関係の深化を図っていく。 - TICAD プロセスや要人往来など政府ハイレベルによる対話・交流の機会のみならず、官民連携による取組を含め、様々な分野での交流を促進しアフリカ諸国との重層的な関係を更に強化する。 2027 年国際園芸博覧会 (GREEN×EXPO 2027) には多くのアフリカ諸国の参加が見込まれるため、この機会をアフリカ諸国との対話・交流に結びつけられるよう引き続き取り組んでいく。

分野 2 : アフリカとの対話・交流及び日本の対アフリカ政策に関する
日本国民及び国際社会の理解の促進

過去 3 年度 (令和 5 ～ 7 年度) の主な成果

2 【日本の対アフリカ政策に関する日本国民及び国際社会の理解の促進】

- 令和 5 年 8 月、[TICAD30周年行事「TICAD30年の歩みと展望」](#)を東京で開催した。林外務大臣、駐日アフリカ大使館関係者など約 400 人が参加し活発な議論を行い、令和 6 年の TICAD 閣僚会合及び令和 7 年の TICAD 9 の成功へと機運を高めることができた。
- TICAD 9 に向けて、親しみやすい内容も交えたホームページや SNS での発信、パンフレット「日本とアフリカ」の作成などの広報活動を実施し、多言語化にも努めた。その結果、TICAD 9 における 200 以上のテーマ別イベントに約 2 万人が参加した。
- 令和 7 年度に行われたアフリカ 3 か国 (ケニア、コートジボワール、南アフリカ) における対日世論調査によると、「日本と友好的な関係にある」と回答したのは 89% (前回令和 4 年度の調査では 86%)、TICAD に関しては 77% が有意義だと回答した。このように、日本の対アフリカ政策に関するアフリカ諸国の国民の理解が着実に増進していることが示された。

課題及び今後の方向性

2 【日本の対アフリカ政策に関する日本国民及び国際社会の理解の促進】

- 日本国内においてはアフリカに対する国民の正しい理解を促進するとともに、国外においては日本に対する良好なイメージ・親近感を醸成するため、日本の対アフリカ政策についての理解促進の取組が非常に重要であり、引き続き積極的に取り組んでいく。
- 積極的な広報活動は、対日世論調査結果の改善や、日本の企業や投資家によるアフリカ諸国への起業・投資の増加に大いに寄与したと評価できる。日本の対アフリカ政策に関する日本国民及び国際社会の理解の促進のため、引き続き広報活動に取り組んでいく。
- 令和 7 年度に行われたアフリカ 3 か国 (ケニア、コートジボワール、南アフリカ) における対日世論調査によると、回答者の 75% が、アフリカへの日本の協力に関し日本に期待する取組として経済的結びつき (投資、良好な貿易関係) の強化を挙げた。これまで以上に、経済産業省やジェトロなどと連携し、貿易・投資分野での取組や成果を強調しつつ、広報を活発化すると共に、アフリカ諸国のメディア関係者の招へいなどにも取り組んでいく。

参考 :

- ・ 外交青書 (第 2 章第 8 節 : [令和 6 年版](#)、[令和 7 年版](#)、[令和 8 年版](#))
- ・ [アフリカ \(アンゴラ、ザンビア\)](#)
- ・ [日・アンゴラ投資協定の発効](#) (令和 6 年 6 月 21 日)
- ・ 日・アンゴラ政策協議の開催 ([第 1 回](#)、[第 2 回](#))
- ・ [令和 7 年度アフリカ貿易・投資促進官民合同ミッション \(結果\)](#) (令和 8 年 1 月 11 日～17 日)
- ・ [TICAD30周年行事「TICAD30年の歩みと展望」の開催](#)
- ・ [2027 年国際園芸博覧会 \(GREEN×EXPO 2027\) に参加表明のあった国・国際機関](#)
- ・ [「日本とアフリカ」](#)

分野 2 : アフリカとの対話・交流及び日本の対アフリカ政策に関する 日本国民及び国際社会の理解の促進

参考 :

＜二国間会談＞

- ・ [日・エジプト首脳会談及び昼食会](#)（令和5年4月30日）
- ・ [日・ガーナ首脳会談](#)（令和5年5月2日）
- ・ [日・ケニア首脳会談](#)（令和5年5月3日）
- ・ [日・モザンビーク首脳会談及びワーキング・ランチ](#)（令和5年5月4日）
- ・ [日・エチオピア外相会談](#)（令和5年8月3日）
- ・ [日・シエラレオネ外相会談](#)（令和5年9月19日）
- ・ [上川外務大臣のマダガスカル、コートジボワール、ナイジェリア、フランス、スリランカ及びネパール訪問](#)（令和6年4月26日～5月6日）
- ・ [日・ナイジェリア外相会談](#)（令和6年4月30日）
- ・ [日・ザンビア首脳会談](#)（令和7年2月6日）
- ・ [日・南アフリカ外相会談](#)（令和7年2月22日）
- ・ [岩屋外務大臣によるファイ・セネガル共和国大統領への表敬](#)（令和7年4月30日）
- ・ [林内閣官房長官とナバンジャ・ウガンダ共和国首相との会談](#)（令和7年10月9日）